

「農家の売上高」3000万円超 道内規模拡大、効率化で

道内農家の売上高に相当する農業粗収益（2016年平均）が3000万円を超えたことが、農林水産省が昨年12月に公表した統計で分かった。07年からの10年間で約6割伸びており、17年も増加基調が続いた可能性は高い。耕地面積の拡大に加えて、GPS（全地球測位システム）などを利用した農作業の効率化も寄与している。営農経費を差し引いた農業所得も930万円に達しており、「富農」が増えているようだ。

2016年農水省経営統計調査

農水省が先月21日、全国の農業経営統計調査（16年分）の結果を公表。このうち、道内で家族を中心に経営する農家の農業粗収益は15年比6%増の3075万円だった。複数の農家で構成する農業法人などは集計対象に含んでいない。

粗収益には農産物の販売収入や農作業受託収入、政府からの助成金などを計上し、農家を企業に見立てた場合の売上高に近い。

道内農家の粗収益は08年に2000万円を突破して以降、一貫して増加している。後継者不足などから農地集約が進み、経営耕地面積の平均はこの間、約17ヘクタールから22.6ヘクタールに広がったことが背景だ。都府県平均と比較した場合、16年の道内の粗収益は6.0倍、耕地面積は10.7倍となっている。

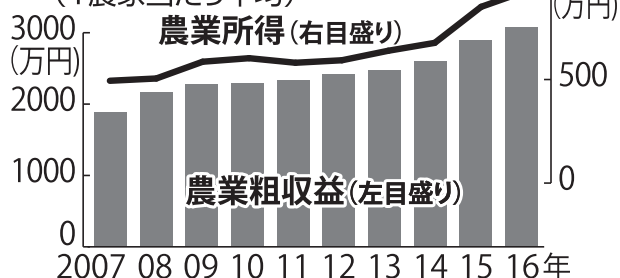
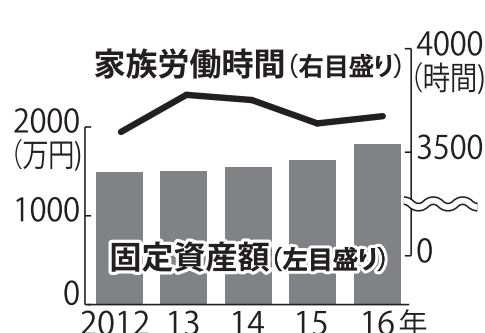
規模拡大によって肥料や資材などの営農経費が増えている。それを差し引いても、実質的な収支に当たる農業所得は930万円と過去10年で9割近く伸びた。

農業所得を耕地面積別にみると、10～20ヘクタールの農家が700万円台なのに対し、50ヘクタール超では2500万円に達する。十勝管内は特に大規模化が進んでおり、高所得の農家が多いようだ。

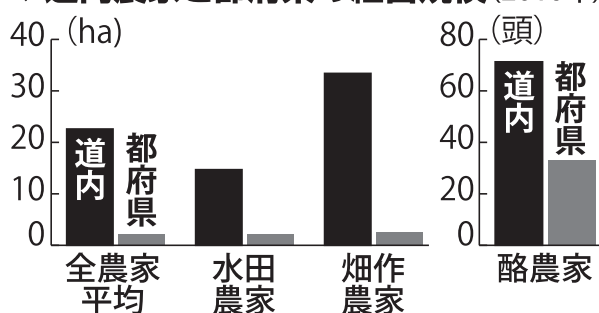
GPSを搭載したトラクターなど農機の設備投資も活発になっている。農家が保有する固定資産額（土地を除く）は、平均1811万円。12年からの5年間で320万円増加している。

もっとも、先端技術の活用で農作業を効率化しているわりには、家族の労働時間はあまり減っていない。16年は年間3674時間だった。季節による繁忙は大きい。農業専従者の道内平均（1.5人）で単純計算すると、1人当たりの労働時間は月204時間となる。

特に酪農の労働時間が長く、年平均6729時間に達する。畑作（3061時間）と比べると2.2倍の水準だった。

◆道内の農業粗収益と農業所得
(1農家当たり平均)◆道内農家の
固定資産額と
家族労働時間の平均

◆道内農家と都府県の経営規模(2016年)



※農家当たりの経営耕地面積、酪農家は月平均の搾乳牛頭数